

## シンポジウム 「大学教育における統計学」報告

と き：1993 年 11 月 4 日 午後 1:00~4:45  
ところ：日本学術会議 大会議室（東京都港区六本木 7 丁目）  
協 賛：統計数理研究所，統計学関連諸学会

統計学研究連絡委員会主催，統計数理研究所及び統計学関連諸学会共催の表記シンポジウムを開催した。その目的は，次の広告の通りである。

統計学と諸科学は常に交渉を密にして，社会の変化と学術の発展に応じ，双方の水準を高めねばなりません。幸い平成 5 年度より文部省科学研究費補助金に複合領域分科「統計科学」が発足し，接触面を強化する可能性が生まれました。一方，諸大学の教養部改組が進む中で，一般教養としての統計学の科目，人員が削減され，専門基礎に移行しつつあります。また，高等学校新指導要領が平成 6 年度新入生より適用され，大幅な選択制度が導入されます。

統計学の人材不足が一段と進む中で，大学で，何を，どのように教えるべきか，について議論していただきたくシンポジウムを開催いたしますので，ご参加いただくようお願い申し上げます。現在，教育研究を担当し，変革の時代のまっただ中で活躍しておられる方々に報告をお願いしています。

出席者は約 80 名で 1/3 は北海道，九州を含む首都圏外からこれ，8 割が現在大学で統計関係科目を担当している方々であった。教育内容，方法，資料について十分に詳しい議論を交わせなかったが，今後諸形式のフォーラムが開かれる端緒となるであろう。

以下の 6 人の報告者，統計学研究連絡委員（肥田野直，正田 彬，大屋祐雪，近藤次郎，水間豊，土屋健三郎，赤池弘次，国友直人，柴田義貞，田中 豊，柳井晴夫，吉村 功，故 脇本和昌）の諸氏のご協力と，共催機関の援助によってシンポジウムを開催できた。特に日本統計学会 60 周年記念事業委員会より財政的援助をいただいた。

（統計学研究連絡委員会委員長・慶應義塾大学 理工学部 渋谷政昭）

### プ ロ グ ラ ム

一般教養・専門基礎としての統計学

「大学前期課程における統計教育」	松原 望（東大・教養）
「地震学と統計学」	尾池 和夫（京大・理）
「工学部における統計工学の教育」	芳賀 敏郎（東京理科大・工）
「医学における統計教育：大学，実務家，研究教育」	大橋 靖雄（東大・医）
「大学教育における統計学 —— 人文科学の立場から ——」	池田 央（立教大・社会）
「経済・商学系における統計教育のあり方」	岩田 暁一（慶應大・商）